

自分と他者 —自他の〈あいだ〉について—

つぎのことを前提とします。

- (1)自分とは自己・自我・身体で構成される。
- (2)自己は他者がいなければ成立不能である。

(1)から類推して、他者も自己・自我・身体で構成されます。

自他の〈あいだ〉を、身体と身体の距離、自我と他我の自我フィールド、自己と他己の自己フィールドとします(図)。通常のコミュニケーションにおいて自我フィールドのみに視点が注がれますが、自己フィールドはほとんど顧みられません。〈自我—他我〉の関係である自我フィールドは思考によってもたらされる関係です。記憶、肩書、印象などによって形成されます。〈自己—他己〉の関係である自己フィールドは隔たりのない今の様子による結びつきであり、仁といいかえてもいいかもしれません。

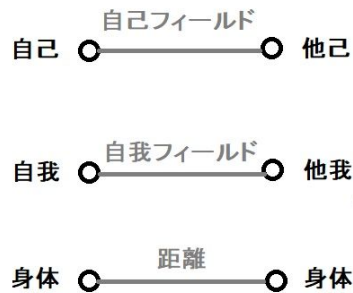


図 自他の〈あいだ〉

(2)から、他者に対して自分を成立させているとき、他者の観察は自者が行い、他者の理解も自者でおこなっていて、その観察・理解はすべて自者のなかでおこなわれています。その意味で、自己フィールドも自我フィールドも自者のなかにあります。上の図において、身体を省略し、自己フィールドと自我フィールド交差させて描いたものを自者とします。

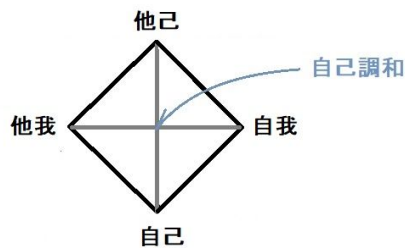


図 自者

自者は他己と他我を含むので、自分よりも拡張した自意識です。自者の認知によって自他の〈あいだ〉は自意識の中に認識され、いわゆるコミュニケーションに対して影響力をもつことが可能です。自己フィールドは自我フィールドに阻まれている状態のとき、バランスが壊れますが、これらが調和しているとき自己調和と呼ばれます。